

東海道五十三次を往く

第40回

坂下宿

鈴鹿峠越えを控え、大いににぎわった宿場町

箱根越えに次ぐ東海道の難所といわれていた鈴鹿峠の麓に位置し、その立地から「坂下宿」という名が付いた。室町時代にはすでに宿場町として機能していたようだが、慶安3（1650）年に発生した大洪水により宿場は壊滅してしまい、1キロほど閑宿寄りの現在の位置に移転し復興された。江戸時代には峠越えをする多くの人たちにぎわっていたが、明治になって関西鉄道（現JR関西本線）が開通し、国道のバイパスもできて人の流れが変わり、町はすっかり衰退していった。

バス停筆捨山付近の集落の家並み越しに広重が描いた筆捨山が見える。一里塚の石碑を過ぎると東海道は国道と分かれて右手に進み、沓掛の集落に入る。クルマの通行量も減り、のどかな里が続く。鈴鹿馬子唄会館を過ぎるとやがて松屋本陣跡、大竹屋本陣跡、梅屋本陣跡と続くが、いずれも石柱碑があるのみ。片山神社を過ぎるといよいよ鈴鹿峠も近い。

筆捨山

室町時代の絵師狩野元信が旅の途中でこの山を描こうと筆をとったが、あまりの素晴らしい景観に絵を描くことをあきらめて筆を捨てたということから「筆捨山」の名が付いたという。広重の絵に描かれた茶屋はすでにないが、農家の建物がどこかしら似た風景を作ってくれた。



鈴鹿馬子唄会館

民謡「鈴鹿馬子唄」や東海道に関する資料などが展示されている。



坂下宿の町並み 一つ手前の閑宿とはある意味で対照的な風景の坂下宿の風景。静かな里の風景を見ながら東海道有数のにぎやかだった往時の宿場町に思いを馳せるのもいい。



歩く人も通り過ぎる車もほとんどないが、道幅の広さが往時のにぎわいを今に伝えている。



松屋本陣跡

坂下宿の本陣は明治以降すべて取り壊され、この松屋本陣も跡地が小学校になり、さらに廃校後の現在は公民館とバスの車庫になっている。

鈴鹿峠自然の家(旧坂下尋常高等小学校)

昭和13(1938)年に建てられた小学校で、昭和54(1979)年に廃校になってからは公民館などに活用され、現在は青少年のための宿泊研修施設として使われている。国の登録有形文化財(建造物)。



法安寺 山門

松屋本陣の玄関の門を移築した唐破風造りの山門。往時の華やかさが偲ばれる。



「写真でたどる、現代の東海道五十三次を往く」
上巻(日本橋～袋井宿)好評発売中!



人気連載「東海道五十三次を往く」が待望の書籍化! 写真をより大きく使い、迫力や臨場感を増して、現代の東海道を紹介している。定価は1,650円(税込)。お求めは全国の書店、ネット通販などから。

お求めはこちらからも!



下巻(見付宿～三条大橋)近日発売!